

History

キラリを再発見

砂丘の砂で埋もれた横穴

桜ヶ池横穴群は、佐倉地区の桜ヶ池のすぐ東側にある丘陵の東側斜面に立地しています。この横穴群の発見は、平成14年度に実施した浜岡町史編さんに伴う掛川市在住の考古学研究者の加藤賢二氏からの聞き取り調査において、以前に桜ヶ池周辺で古墳時代の横穴群を見たとの情報に端を発します。その情報を基に、現地を調査したところ2基の横穴が発見されました。その後、この横穴群に桜ヶ池横穴群という遺跡名を付け、平成15年度には周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

桜ヶ池横穴群は2基とも横穴の内部が半分以上砂丘の砂によって埋もれていることから、この横穴が作られた古墳時代以降も砂丘が桜ヶ池近くまで発達していたことが分かります。

発掘調査をしていないため副葬品などについては不明です。また、発見された2基以外にも、砂丘の砂により完全に埋もれてしまった横穴が周辺に存在している可能性もあります。

照 会 社会教育課 ☎0548③1129



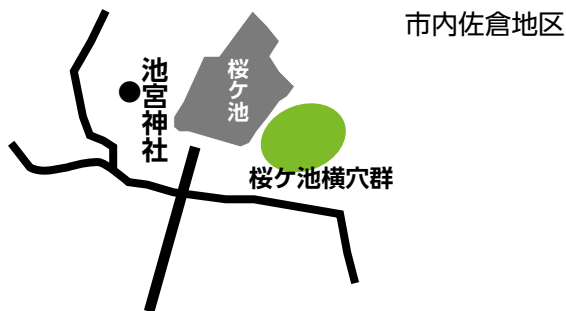
▲桜ヶ池横穴群全景



▲桜ヶ池横穴群第1号墳



▲桜ヶ池横穴群第2号墳



埋蔵文化財包蔵地 **桜ヶ池横穴群**

Atomic

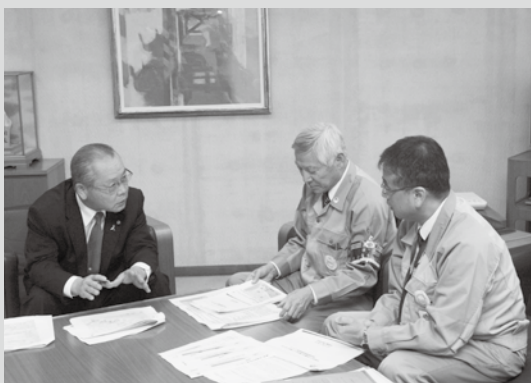
暮らしと原子力

津波堆積物調査結果について
「巨大津波の痕跡なし」

中部電力は、平成23年3月の東北地方太平洋沖地震および国の動向を踏まえ、浜岡原子力発電所の敷地および周囲における過去の津波の発生状況を確認するために、平成24年8月から津波堆積物調査を実施し、12月2日、市へ調査結果の説明を行いました。

調査を実施した浜岡原子力発電所敷地(西側、東側)、箆川流域、新野川流域、菊川流域のうち、発電所敷地および菊川流域の一部において、堆積当時の海面からの高さで、約0.8mおよび約3.4m未満の位置に津波の可能性のある堆積物が確認されました。その他の調査地点では、確認されませんでした。

今回の津波堆積物調査結果からは、安政東海地震津波や宝永地震津波などの歴史資料に記されている津波と比べて、巨大な津波を示唆する結果は確認され



ませんでした。

なお、今回の調査結果は、巨大な津波痕跡は確認されないとする遠州灘沿岸の既往の津波堆積物調査結果と、おおむね同様の結果でした。

水谷総合事務所長から説明を受けた石原市長は「この結果に安心するのではなく、今後もしなる調査研究をしてほしい」と話しました。